

〔枕草子五〕五月の○申つるたちより雨がちにくもりくらす、つれぐなるを、郭公の聲尋ありかばやといふをき、て、われもくと出たつ、賀茂のおくになにがしとかや、七夕のわたるはしにはあらで、にくき名ぞきこえし、そのわたりになん日ごとになくと人のいへば、それは日ぐらしひりといらふる人もあり、そこへとて、五日のあした、みやづかさ車のこといひて、北の陣よりさみだれはとがめなき物ぞとて、さしよせて四人ばかりぞのりてゆく、

〔源平盛衰記三十九〕重衡關東下向附長光寺事

本三位中將重衡卿ハ、兵衛佐○源依被申請、梶原平三景時ニ相具シテ、關東へ下向○中勢多唐橋野路宿、篠原塘鳴橋、霞ニ陰ル鏡山、麓ノ宿ニゾ著給フ、

〔五元集貞〕霜月廿七鳥候于黃門光國卿之御茶亭、題周山之佳景○中

七唐橋 唐門を見て長はしを渡る、海あつて等閑に沙干を見せたり、

長橋や勢田にあひ見んふ、き松

〔書言字考節用集一〕乾坤廊下橋ラウカ本名棧道、又閣道、通艦註、路險不

〔國花萬葉記二〕下城通天橋 東福寺の内に有、廊下橋也、

〔愛媛面影一〕周數郡中山越

曙橋さきばしと名る、復道あり、山城東福寺の通天橋に似たり、

〔江戸名所圖會三〕大鼓橋 同所○岡坂下の小川に架せり、自黒川と柱を用ひず、兩岸より石を疊み出して橋とす、故に横面より是を望めば、大鼓の胸に髪髪たり、故に世俗玄か號く、享保の末木食上人いふ歟を心譽是を制するとなり、

〔西遊記五〕目鏡橋

長崎の橋はすべて唐風の作りやうなり、兩岸より切石を疊上で、橋杭なしにかけ渡せる石橋な

大鼓橋

廊下橋